



タイ | バンコク

日本語教師アシスタントプログラム 2020



株式会社キャリアエクステンジ

〒104-0061 東京都中央区銀座3-11-3 LEAGUE303号

電話 03-6278-8750

URL: www.career-ex.com E-mail: info@career-ex.com

日本語教師アシスタントプログラムとは？

こんな希望を持つ方におすすめです

- 将来日本語教師を目指している
- 将来先生(小・中・高校)を目指している
- 既に先生だがそのキャリアアップを図りたい方
- 児童英語教師を目指している
- 実践的な英語を身に付けたい
- 受け身な英語ではなく自ら発話する英語力を身に付けたい
- 将来英語の環境で働きたい
- 日本人のいない地域で生活したい



海外日本語教育の現状と日本語教師の需要について

【海外日本語教育の現状】

近年、海外において日本語教育を何らかの形で取り入れている国は増加の一途を辿っている。その教育内容は国や教育機関によって異なっており、日本語を専門的に学ぶことを主な目的とする国・教育期間もあるが、多くの学校は 折り紙、習字、茶道、華道といった日本固有の文化を通じて日本語・日本文化を学び、日本への興味を持つことを主な目的とする教育方式を採用している。このような日本語教育の現場では日本語を母国語とし、日本文化を熟知した教師、すなわち日本人による日本語教師の必要性が高く求められている。しかし、実際に日本語教師として海外にて就労するためには、各国により定められた経歴・語学力・資格を満たさねばならず、狭き門となっているのが現状である。

【日本語アシスタント教師とは？】

そんな中、プロの日本語教師としてではなく、日本語教育現場にてアシスタントとして現地の子ども達に日本語・日本文化を伝えるべく世界中で活躍しているのが「ボランティアとしての日本語教師」である。ここで言う日本語教師とは、現地の日本語教師もしくは外国語教師のティーチング・アシスタントとして教壇に立ち、現地の生徒たちに日本語・日本文化を伝えるために、学校に迎えられたスタッフの一人である。派遣される教師に最も必要とされるのは向上心と熱意と積極性であり、通常、経歴や資格は一切必要ない。現在、数多くのボランティア日本語教師が世界で日本語・日本文化の普及に貢献し、日本よりの親善大使として日本と海外との国際交流に重要な役割を担っている。

【プログラムの位置づけ】

単なる留学だけではなく、『日本人』という武器を使うインターンシップのプログラム。学校では積極的に英語を使いながら日本を教えるという(間接法という教授法)環境下なので、英語を使わざるを得ない環境での活動となる。また、現地の生活に密着し、通常の留学では味わうことのできない現地学生・学校スタッフ及び地域住民との触れ合い、教壇に立つことの責任感等を体験(英語環境の現場に立つことができる)。日本人のあまりいない地域で1人で生活する充実感と感動を体験し、教育フィールドや英語を使用することに関してキャリアアップを目的とする方におすすめのプログラムである。

ボランティア日本語教師として派遣されることにより、学校のスタッフの一員としてその教育現場に参加し、スタッフ、生徒、地域の人々との触れ合いや、ホームステイにおける異文化、生活習慣の体験、その見るもの、体験するものすべてに感動を覚えることができます。現地の生活に飛び込むことから、1日中英語漬けの生活に浸ることにより、1日毎に英語が上達する実感があるでしょう。国際化という言葉が呼ばれて久しい現在、世界の国々はよりいっそう身近なものとなっていますが、真の国際的相互理解というものは学習で身につくものではなく、体験し、実際にコミュニケーションを取り、はじめて身につくものです。参加者がプログラムの体験を通じ、語学としての英語ではなく、人と人との交流を図るコミュニケーションとしての英語を身に付け、海外の異文化を肌で感じ、自国の言語そして文化を広く海外に紹介する国際貢献という貴重な経験を通じて、一方で自らは、真の国際人として今後の国際社会に羽ばたいて行く素養を身に付けることができるでしょう。

タイ日本語教師アシスタント活動について

ほとんどの学校にはメインの日本語教師がいるが派遣校によってはいない場合もあります。メインの先生がいらない場合は、自分で教案を作成し、スケジュールを立て対応することも有ります。必ず他の学校の先生のサポートがありますが、全て受け身ではなく、自主的に活動できることが望ましいです。

学校の種類

大学・大学付属高校・語学学校・民間企業・小学校など

講師の種類

日本人講師、現地ネイティブ講師(日本語流暢な方もいますし、そうでない先生もいます)

滞在方法

ホテル、レジデンス、学生寮

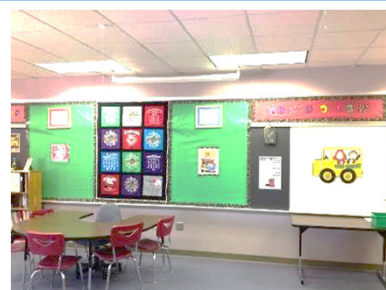
日本語教育の環境	参加に適したタイプ	参加条件など
<p>多くの日系企業が進出しているタイでは日本語を学ぶことで、就職に強いということで日本語を学ぶ人が多いです。</p> <p>日本のドラマや映画も頻繁に放送されているほど日本ブームが巻き起こっています。そういった傾向から現在では大学入試の際に日本語のテストを実施する大学も増えてきています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初めての海外渡航の方 英会話力にちょっと自信の無い方。 日本語を教えた事の実験が無い方 なるべく多くの日本語の授業に携わりたい方。 タイが好きの方 	<ul style="list-style-type: none"> 高校では基本的に直接法(日本語を使って日本語を教える)を使用するので英語やタイ語ができなくても問題ありません。 現地学期は5月・11月開始の2学期制。そのため休暇期間である3・4・10月は参加できません。

有給インターンシッププログラム参加希望者の方へ

タイで有給日本語教師インターンシッププログラムは、タイへの大学、日本語学校(語学学校)等で、日本語教師として活動頂くだけでなく、給料が支給されるプログラムです。通常1~2万バーツ/月(タイ大卒初任給8000バーツ/月程度)支給されます。就労ビザ取得のため4年制大学ご卒業が条件であり、また日本語教師関連の資格を所持されている事も必要です。

日本語教師アシスタント活動 1日のスケジュール例

- ◆ 7:00 起床 / 朝食
- ◆ 7:45 家を出る
- ◆ 8:00 学校到着 / 授業の準備
- ◆ 9:00 授業開始 (1 クラス 30 分 × 3 クラス)
- ◆ 10:30 モーニング・ティー・タイム
- ◆ 11:00 授業 (3 クラス)
- ◆ 12:30 ランチ・タイム
- ◆ 13:30 授業 (3 クラス)
- ◆ 15:00 授業終了
- * ホームステイ先の子供達が、毎日習い事をしているので その間買い物をしたり、図書館に行ったりしている。
- ◆ 17:00 帰宅
- ◆ 19:00 夕食
- * 上記のスケジュールはあくまでも一例であり、派遣国・派遣学校により異なる



タイ日本語教師プログラム費用概算

	1週間	2週間	3週間	4週間	1年間 有給インターン
登録費 (選考費用)	¥33,000	¥33,000	¥33,000	¥33,000	¥33,000
プログラム費用	¥160,000	¥195,000	¥230,000	¥265,000	¥465,000
現地生活費 交通費等(目安)	¥20,000	¥25,000	¥35,000	¥50,000	*滞在先により 生活費が異なる
海外保険料	¥9,120	¥13,600	¥17,570	¥19,640	¥223,120
往復航空券 (目安)	¥60,000	¥60,000	¥60,000	¥60,000	¥60,000
小計 日本円	¥282,520	¥327,000	¥375,970	¥428,040	¥781,520

1~11週間プログラムに含まれるもの

プログラム運営費
 出発までのサポート
 ビザ取得サポート費用
 オリジナル教材費
 現地準備研修費
 現地準備研修中の滞在費
 現地サポート費
 修了証発行
 帰国後の就職サポート
 往復空港送迎
 活動期間中の滞在費
 タイ語レッスン

【ご注意事項】

- 4週間以降の延長料金は週35,000円となります。
- 延長はMAX11週間まで可能です。
- 有給インターンプログラムは年1回(5月)のみとなります。
- 有給インターンシッププログラム費用には滞在費は含まれていません。
- バンコク以外の都市(アユタヤなど)に派遣される場合もあります。
- 留学生保険料金は代表的プラン料金を参考金額として掲載。補償内容・ご契約プランによって保険加入料が異なります。
- プログラム費用は、教育機関等の都合および為替レート変動により予告なく変更されます。最新料金はお問い合わせ下さい。



日本語教師アシスタントプログラム参加の流れ



- 選考の結果によっては他プログラムや事前語学コース受講などのご提案をさせていただきます。
- 受け入れ教育機関の状況により、研修開始時期直前に派遣校が決定、または変更になる場合があります。
- 受入先決定までに平均1ヶ月の期間を要します。希望渡航時期に出発するためにできるだけ早くのお申込をしていただくようお願いいたします。

日本語教師アシスタント よくある質問

Q1. 教師としての経験がなくてもこのプログラムに参加できるのでしょうか？

A. はい、できます。必ずしも教師の資格がなくてはいけないという規定はありません。しかし派遣校では教える事の好きな方、又は教えた経験のある方が好まれる傾向にあります。

Q2. 授業のすべてをいきなり任されるのでしょうか？

A. 派遣校によって異なります。日本語教師がいる学校では、初めから授業のすべてを任される事はありませんが、日本語教師のいない学校では数週間後から自分で授業のカリキュラムを組んでいく場合があります。授業を任されるチャンスもあるでしょう。ただし、このような場合でも、クラスの担任教師がいるので、授業の進め方などについては随時相談可能です。

Q3. 学校やホームステイではどの程度の英語力が必要ですか？

A. 一般的な会話が困難なくできるくらいの英語力が必要となります。学校では特に英語授業を進めていかなければならず、自分の意志が英語で伝えられるくらいの会話力が必要となります。目安としては英検 2 級、TOEIC600 点程度。

Q4. プログラム参加の年齢制限はありますか？

A. 基本的には 20 歳以上となります。また、国によってビザ取得条件の問題上年齢制限があります。

Q5. 派遣される地域や学校の形態は選べますか？

A. 派遣校については、出来るだけ参加者の希望に添えるよう調整していますが、学校側の要望もあるため、希望に添えない場合もあり得ます。基本的に派遣校は、都市部から離れた田舎にある場合がほとんどです。都市部への派遣の希望は従って、難しい場合も有るでしょう。学校の形態については、参加者の希望、資格、経験を考慮した上で最終的に決定致します。また、日本語教師のいない学校に派遣される場合もありますが、その場合も参加者の資格、経験等を考慮したうえで派遣先を決定します。

Q6. 日本で事前に用意しておくものはありますか？

A. 日本語で書かれているものなどが喜ばれます。例えば、まんが本、チラシや広告、日本食料理の本、レストランメニュー、日本の教科書、ハンコ等。他には日本地図、日本食の材料、日本のお金(コインなど)、写真などがあると便利です。

Q7. 準備研修はどのような内容ですか？(下記はあくまでもサンプルです)

A. 例: 第1日目ー プログラム紹介/現地での暮らし方(ホームステイ、学校生活案内) 第2日目ー 日本語教授法の移り変わり/日本語教師としての心構え 12 第3日目ー 授業デモンストレーション/ロールプレイング 第4日目ー 様々な文化及びゲームの紹介の方法/授業を楽しくする方法 第5日目ー 参加者の意見発表/意見交換/デモンストレーション/ロールプレイング

Q8. 準備研修中の英語集中講習はどのような内容ですか？

A. 普段学校で使用している英語のフレーズを中心に、英語で日本語を教える為の授業内容計画方法、授業中の生徒との接し方、学校のスタッフやホームステイの方々とのコミュニケーションの方法などを含めてすべて英語で授業を行います。

Q9. 現地の日本語教師は日本人なのですか？

A. 一般的に大学以外で日本人の日本語教師のいる学校は、オーストラリア、ニュージーランド、カナダには少なく、現地人の教師が日本語を担当しているケースが多いです。が、最近は日本人の教師も増えてきています。

Q10. 1日にどのくらい日本語の授業がありますか？

A. 学校によって様々です。オーストラリアの場合通常朝9時から3時まではフルで授業があり、午前中（約11:30頃）に1回、午後（1:30くらいからのお昼休み）に1回ずつ休みが入ります。例一 午前中、低学年の2クラスを教える（簡単なセンテンス、ゲームなど）午後、高学年の2クラスを教える（新しいセンテンス、漢字、文化紹介など）カナダについては、正規の授業科目として日本語の授業を行っている学校では、日本語教師のアシスタントとして、通常1日2～3時間の授業があります。それ以外の学校では、担当教師と相談の上、日本に関する授業を行うケースが多いです。また、英語で行われる他の授業のアシスタントをすることもあります。尚、プログラム参加者の多くは、昼休みや放課後に日本クラブをつくり、日本文化の紹介（折り紙・簡単な日本語紹介など）を行っています。

Q11. 週何日学校へ行きますか？

A. 現地の学校は平日、月曜日から金曜日の5日間。皆さんもスタッフの一員なので5日間学校に行くことが基本です。

Q12. 空いている時間はどのように過ごしますか？

A. 学校では、スタッフとコミュニケーションを取るチャンスです。ほとんどの参加者はスタッフルームで休憩をしたり、次の授業の準備をしたりします。また図書館で自分なりの時間を過ごしたり、英語力を伸ばすために英語の授業に生徒として出席することもあります。またホームステイ先では、週末など家族と過ごして現地の生活を満喫することも可能です。

Q13. ホームステイはどのようなものですか？

A. 基本的に学校関係者宅（派遣校の教師宅または生徒宅等）になります。但し、派遣先によっては学校の事情により、学校関係者以外になる場合もあります。ホームステイ先では、家族の一員となって家族行事に参加したり、手伝いも進んでする様に心がけましょう。自分自身を居心地よくさせる為にはホストファミリーの一員となることが大切です。尚、ホームステイ先は受入先の希望により派遣期間中複数になる場合もあり、ホームステイ代に関しても受入先によって異なります。尚、学校のホリデー期間中は、家族の方も旅行に行かれたりする場合があるので、基本的には滞在することができません。（但し、ホームステイ先の家族が了承した場合は、滞在することは可能。）

Q14. ホームステイ先から派遣校までの交通手段は？

A. 基本的には徒歩、スクールバス、またはホームステイ先による送迎等により移動します。但し、派遣先によっては公共の交通機関を使用する場合もあり、その場合は現地での実費払いとなります。

Q15. 参加費用の他にどのくらいの費用がかかりますか？

A. ホームステイ代、現地でのお小遣い、スクール・ホリデー中の生活費、派遣校の移動がある方はその分の交通費が必要となります。オーストラリア、ニュージーランドのスクールホリデーは年に4回あり、クリスマス・ホリデー以外は約2週間、クリスマスホリデーは約6週間あります。また、ホリデー中には国内旅行に行かれる方がほとんどのようです。尚、カナダの場合は地域によって、通常のホームステイ代とかわらない場合や、ホリデー期間中、旅行等の長期不在をしても、ホームステイ代の支払いはしなければならないところがあります。

Q16. 月々のお小遣いはどのくらい必要ですか？

A. 派遣期間中は、ホームステイ代以外は特に多額のお金が必要になる事はありません。外食は夕食で一人約\$25～\$30が目安。但し、ホリデー中は過ごし方により出費が異なります。

Q17. 現地でのサポートはどのようなものですか？

A. 1 週間の準備研修が派遣地出発前に現地オフィスにて行われます。また、現地の日本人専任コーディネーターが、定期的に参加者や派遣校に連絡したり、毎月参加者には他の参加者の情報としてレポートが送付されます。ビザの相談、派遣後の進路相談にも応じます。

Q18. 現地で参加期間の延長は可能ですか？

A. 参加期間の合計が 12 ヶ月間までは延長が可能な場合があります(派遣国の状況により異なる)ます。延長希望の場合は各派遣国の現地事務所へ事前に連絡し手続きをとります。その際にビザの延長が必要となるため、申請料を現地にて支払う必要があります。派遣校は状況により変わらない場合と変わる場合があります。又、延長の申込をした段階で、延長分の参加費用の差額を支払う必要があります。また、参加者の保持しているビザの期限内で、1~2ヶ月の延長をする場合は、必ず現地オフィスに連絡を入れ、延長分の料金を支払う必要があります。その場合の費用は、派遣校が決定した時点での支払いとなります。尚、延長希望の連絡が遅かった場合、学校の手配及びビザの延長が間に合わず、延長できないこともあるため、できるだけ早く現地事務所に連絡を入れてください。

Q19. 派遣される学校は滞在中 1 校？ それとも複数校ですか？

A. 派遣校は複数(2~3校)の場合と1校だけの場合があります。受入校の希望の期間よりも参加者の希望期間が長い場合は、複数となる場合があります。その際の移動交通費はご本人負担で実費となります。

Q20. 派遣校にアシスタント教師は、何人いますか？

A. 基本的には参加者本人のみですが、前任者と期間が若干異なる場合もあります。また、他の機関から受け入れられている場合も希にあります。

Q21. 派遣校ではどのような服装が適切ですか？

A. スタッフの服装は学校によっても様々ですが、基本的にカジュアルな服装(ポロシャツ、キュロット、ズボンなど)で大丈夫な学校がほとんどです。しかしジーンズやTシャツなどは好まれない場合がありますので注意が必要です。私立の学校は服装に厳しいのでセミフォーマルな服も何着か用意しておくといいです。

Q22. 荷物が多いのですが先に派遣地へ送る事は可能ですか？

A. 可能。しかし前以って派遣校やホストファミリーに連絡する必要があります。

Q23. 喫煙はできますか？

A. すべての学校が基本的に禁煙。ホームステイ先では、必ず家族に断わって外で吸うようにしましょう。

Q24. 派遣後の進路相談とは、どのようなものですか？

A. プログラム終了後、派遣国へ残って進路を決める場合、ビザの可能性等も含めて相談をすることができます。

Q25. 派遣校に対して出発前にしておくべき事はありますか？

A. 校長先生に必ず手紙を出すこと。自己紹介、学校で生徒に紹介したい事などを手紙、カード、絵葉書に書き、事前に書面で挨拶します。また、学校詳細に書かれているコンタクト・スタッフ、日本語の先生、ホスト・ファミリーにも手紙を出したほうが良いでしょう。